

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092500077		
法人名	社会福祉法人 高瀬会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム「湯ごりの郷」(Aユニット)		
所在地	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町湯川61番地		
自己評価作成日	平成22年3月12日	評価結果市町村受理日	平成22年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092500077&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成22年4月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人ひとりが生活への希望が叶えられるよう個別の関わりを進めています。一人ひとりの大切な人や場所、物との関係が継続できるようにそれぞれに支援し実現出来る方法を考えています。地域の行事や催しに積極的に参加し、地域との連携や交流。ご利用者の社会性が維持されるように取り組んでいます。「笑顔あふれるホームづくり」が目標です。心地よく過ごしていただき、一緒に過ごす時間を大切に寄り添う介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ると職員たちの自然な和みを感じさせる眼差しが外来者を迎え、自分の家に帰ってきた如く、癒される雰囲気満ち溢れている。スタッフは、「自分たちが施設利用をする時が来たら、このホームしかない」と言われる程の住環境を創り上げている。職員は毎月一回順次、接遇や心理学、認知症についてなどの自分の好きなテーマで研究を行い、発表会で発表し学びの達成感を得ている。管理者は業務で指示することは少ないが、職員と相談し任せる等互いに協力しあえる信頼関係が構築されている。また、地域のホームとして小学校に訪問して行うハンドベル演奏や、地域行事への参加、ホーム行事に地域の方を招待するなど、積極的に交流し地域に馴染む努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で笑顔あふれるホームづくりが事業所の目標です。自然と笑顔が出るようなそんな安心できる生活を目指しています。	「笑顔あふれるホームづくり」を理念に、管理者・職員とも、事業所づくりの目標としている。また、各部署に掲げカンファレンス、気付いた時に常に話し合い、意識の向上と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所との交流会や小学校・地区の運動会への参加など地域との交流は積極的に行っています。小学校からの訪問や学習発表会への招待があります。	日常の散歩で地域の住民と会話したり、地域の一員として保育所・小学校・地区の運動会へ参加している。また、小学校からの訪問や発表会に招待もあり積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型サービスとして機能し、地域貢献できる事がないか運営推進会議などで話し合っています。見学の希望は多く応えられるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を毎回写真などで分かりやすく紹介しています。できるだけ意見が頂けるように問いかけを行い、得られた意見は改善につなげていけるように検討を行っています。	運営推進会議には区長・施設職員・町福祉担当・包括センター・家族代表が参加しており二ヶ月に一回開催している。ホームの活動を写真入で報告する等しており、会議で出された意見はサービスの改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入所状況の報告を行っており、事業運営で相談があるときには担当者と相談しています。運営推進会議に参加していただいたり、町の行事に参加したり協力してもらったりしています。	町へは毎月入所状況の報告を行い、担当者と事業について相談等を行っている。また、町の行事への参加や、運営推進会議に参加してもらおう等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解を深めるよう繰り返し研修を行っています。介護者側の都合での一律的な介護をなくしていくために更なる個別ケアに取り組んでいます。	契約書に明記すると共に、入居時、家族の協力も得られるよう拘束のリスクを説明している。また介護する側の都合で玄関に施錠したり、会話に命令・禁止言葉を使用しない取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修の機会を持ち権利擁護の意識を高めるよう努めています。権利擁護推進員研修も職員が受講しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後制度の利用が必要な方については市町村担当者、包括支援センター等と相談しています。職員制度の理解については今後研修を深めていく必要があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行うとともに本人、家族の質問に答えています。不明な点があればいつでも相談していただけるように必ず伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談の窓口を設置し意見箱の設置も行っており、職員が聞き取った意見についても報告する体制があります。利用者からの意見も食事作りや活動に取り入れ積極的に反映させています。	運営に関する利用者家族の意見希望は、「苦情 要望メモ」に記録し検討のうえ、家族・利用者に報告している。外部機関の苦情相談窓口を書面で説明している。意見や要望を表せ易い雰囲気づくりをしており食事の献立や感染予防など、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、運営や活動に関する職員の要望を聴きとれるようにしています。	ミーティングや毎月の職員会議に管理者も出席し意見交換をしており管理者の意見だけでなく、スタッフの考えを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々についてその能力や業績、状況を人事考課制度で評価しています。処遇改善交付金も申請を行い労働条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を取り入れ、職員個々に話し合う機会を持つようにしています。研修も積極的に行っており、外部研修については職員のレベルに応じて参加できるよう相談しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修や交流の機会があります。福祉事業所交流のスポーツ大会や研修の機会にも参加していますが、よりサービスに活かせる交流を図りたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ本人の状況を詳しく確認し可能であれば訪問し本人及び家族が出来るだけ不安なく混乱なくスムーズに利用できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入時が最も信頼関係を構築するのに重要な時期であると考えています。家族の要望をうかがいながら提供できることや相談の必要な事など十分話あう機会を持つように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際して本人、家族にとって適切な段階であるかどうか担当のケアマネージャー等とも相談して必要性を検討しています。申し込み家族からも今回は入居を見送ります等の相談経緯がありました。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には常に本人が出来ることは自分でしていただく、出来ないことはしてしまうのではなく一緒にいうことを常に話しています。協力して生活する関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などコミュニケーションをとりながら家族からの要望を聴きだせるように努めています。サービスを利用しているという家族の立場も推し量って考えられるように職員間で話し合っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の大切にしている場所、事、人との関係を継続できるよう、地域の祭りやイベントにできるだけ参加しています。参加者はとても喜ばれて楽しまれています。	馴染みの人間関係や、本人が大切にしている墓参り、地域の祭りや行事等への参加や外出等、今までの生活が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間関係がうまくいくように、気のあう方あわない方を把握し職員がフォローしています。できるだけ役割を持っていただきお互いが認めあえる関係づくりを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、ご本人の様子や、ご家族の相談を受けられるようにその後の状況を確認しています。職員も面会や訪問に訪れています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1つでもご本人の希望を実現できるように家族と相談して計画検討しています。自宅に帰ってみたい、お墓参りに行きたい、祭りを見に行きたいなど1つひとつ実現していています。	入居時にも、本人にとってどのような生活を希望するかを聴き、家族と相談しながら外泊やお墓参り、祭りの見物等本人本位に検討支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴はケアする上で重要な情報であると認識しています。自分史の作成などご本人、ご家族と一緒に作成しその方の理解に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックや食事、生活を共にする中で状態に変化がないか注意しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画は職員全員で話し合い共有しています。現状の課題、ご本人にとって一番何が必要か、大切かを話し合っってプランにしています。ご本人ご家族の希望も盛り込めるように聞き取りを行っています。	本人・家族の思いが入ったケアプランを作成するため、利用者家族の希望を聞き取り相談して、職員全員で話し合い希望に合わせたプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日のバイタルや活動の様子、ケアプランの実施状況などを個別記録に記入し、共有できるようにしています。申し送りノートを必ず確認し情報が共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なケアにならないようグループホームのケアの可能性を話し合っています。その時々ニーズは相談して柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向を実現するために地域の方々に協力していただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望する医療機関への受診、往診を支援し、ご家族が行けない場合には代行しています。	家族・本人が希望する医療機関やかかりつけ医、病状により町立病院を利用している。受診に家族が付き添えない場合は、職員が付き添って適切な医療を受けられる様に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同建物内の看護職にアドバイスを受けれる環境にあり、医師の往診時に相談しています。よりスムーズに連携が取れるように話し合っていく必要があると感じています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の地域連携室と情報交換を行っています。入院、退院時に相談するようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の事業所の対応と家族との相談事を十分に説明し理解をえられるようにしています。	終末期に向けた重度化対応について、関係者と充分相談し理解を得て支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急救命講習を受講したり、緊急時対応マニュアルを確認したりしています。特に新人職員などは利用者の急変に備えて繰り返し研修し訓練をおこなっていく必要があると感じています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は避難訓練を行い火災予防訓練を行っています。消防署からも防災についての研修を行ってもらいました。前回の外部評価より地域との防災協定を結んでいます。	年二回の避難訓練を実施している。消防署立会いの訓練や消防署から防災研修等を受けている。運営推進会議で検討し、地域との防災協定を結んでいる。	更に安全の為、消防署に防災について続けて報告・話し合いの場を持つ事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の話に耳を傾け、同調し一人ひとりが尊重されていると感じていただけるよう心がけて対応しています。プライバシーと言葉遣いについては繰り返し話し合っています。	利用者の話を傾聴し、方言を豊かに取り入れながら会話しており、利用者を傷つけることなく人格を大切に対応している。またプライバシーの確保について日常繰り返しスタッフ間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の活動はそれぞれ思い思いに過ごしていただけるよう活動への参加の有無は本人の意思決定によりおこなっています。ご本人の意向を大切にできるように日常の会話の中で意向の問いかけをおこなっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースがたもてるよう心がけて支援しています。時間や集団、業務にとらわれないように常に話しあっていく必要があると感じています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着る服を選んでいただいたり、髪型を変えたりスカーフを巻いたり、その方に合った装いを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい献立などをご利用様と話し合い取り入れられるように努めています。パンを焼いたり野菜を切ったり、後片付けなども役割を持って担当してくれています。	季節の野菜づくりや、山菜のイタドリ・蔘・わらび等散歩を利用して採集し共に準備する等、利用者の好みや能力に応じた調理手伝い等職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し栄養状態の把握に努めています。その日の体調や状況に合わせて食事形態を柔軟に変えて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援の必要状況とご本人の習慣に合わせて口腔ケアを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の状態や本人の気持ち、心身の状態に合わせてケアを行っています。	チェック表等で心身の状態を把握し、利用者の排泄パターンに合わせて可能な限りトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を記録し出来るだけ便秘の症状が出ないように気をつけています。乳製品を食べたり腹部のマッサージをしたりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声かけはさせていただいていますが入浴はご本人の希望により行っています。毎日、対応可能な時間の中で自由に入浴していただき温泉浴を楽しんでいただいています。	入浴時間は決めず、毎日職員が対応可能な時間の中で利用したい時に、また、気の合う友達とも自由に温泉を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズム、一人ひとりの体力や状態に合わせてベッドで休んでいただくなどその状況に応じた対応を支援しています。個別に楽な姿勢で休めるよう検討しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の内容は個別ファイルにまとめて確認できるようにしています。服薬の変更時も申し送りにて全員に伝わるようにし状態に変化がないか注意して観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の世話や畑作り、編み物や調理を手伝っていただくなど一人ひとりに合った楽しみ方や得意な分野でかかわりが持てるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラスに出て外気浴をしたり暖かい日に散歩や畑に出かけたりしています。本人の希望に応じて家族と相談し地域の祭りや自宅への帰省など相談して実施しています。地域のイベントなども楽しみに出かけています。	本人や家族の希望にそって、畑に出たり、外出・散歩・外食・帰宅等、極力応じている。また、地域の祭りや行事にも出掛けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の力に応じて自身で管理していただいている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に合わせて、手紙や電話を自由に出来るよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絶えず清潔を保ち落ち着いて過ごせる雰囲気を作り、その日の天候に合わせて温度調節しています。季節の花を飾ったり、皆で作った季節感のある作品を飾って季節感を感じていただけるように工夫しています。	食堂・フロア・浴室等採光に気を配り、職員の話し声もさりげなく配慮している。カセットの音量も適宜調節している。適所に草花や手作りの作品、折り紙等が置かれ季節感が感じられる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座って新聞や本を読んだりくつろげる場所があり自由に使っていただいています。他の方と会話を楽しまれたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の大切なものを持ってきていただき大切な場所となるように使い慣れた椅子を持ってきていただいたり家族の写真を飾ったりしています。ご本人が気持ちよく過ごせるように職員は気配りしています。	居室には使い慣れた椅子や家具を持ち込み、家族の写真等を飾る等、本人が居心地良く過ごせるよう、家族・本人の意見希望を取入れ工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリーなどで安全に生活していただける状況にあります。現在はおおむね自分の部屋やトイレなどの場所を理解していただいています。		